



完成した200号を手にする「むくげの会」の会員
ら。神戸市灘区山田町、神戸学生青年センター

朝鮮半島への理解広げ

倉千から32年

の七人は、代表の飛田雄一さん(左三)ら全員が団塊の世代だ。

通信は隔月発行。七三年からB5判二十八ページの現在のスタイルになり、

日韓条約や関東大震災で

同会は、ベ平連の差別抑圧研究会を母体に、日本人の立場で朝鮮について学ぼうと発足した。むくげは、殖民地下の朝鮮の抵抗運動を象徴する花として知られる。現会員

神戸市灘区の神戸学生青年センターを拠点に、朝鮮史や朝鮮文化を学んでいた市民サークル「むくげの会」が、機関誌「むくげ通信」の通算二百号をこのほど発行した。創刊は、会の発足と同じ一九七一年。会員が研究の成果を発表し、隣国を知るために情報誌の草分けにもなった。会員たちは「伝えたいことはまだまだある」と意気盛んだ。

(富沢之祐)

の朝鮮人虐殺などをテーマに、会員の共同研究論文を載せた。また、「朝鮮人なら誰もが知る『人物

朝鮮史』」や言葉の解説を連載。当時の国内には関連文献が乏しく、翻訳を載せるものも多かった。最近は、古代史や兵庫県の在日朝鮮人運動史など、会員がそれぞれ研究テーマを持ち、論文を寄せる。韓国と北朝鮮のカラオケ事情や旅行記などの読み物もある。二百号では、東アジアの食文化を調べる佐々木道雄さん(左五)が、ホルモン料理のルーツを紹介している。

手作業で五百五十部を印刷する。「自由に書けて、広く意見を求められる貴重な場」との思いは七人に共通する。「関心や理解は広まったが、レベルを底上げする役割を担いたい」と飛田さん。目指すは三百号。「初期の通信は青春そのものだけど、三百号を出すころは七十代」との感慨も漏れた。

年間購読料千八百円。一年間の通信の合本もあり、千百一千三百円。同センター☎078・851-2760

むくげ通信200号